



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2021年8月1日

№. 87

信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、
あなたがたを愛に根ざし、
愛にしっかりと立つ者としてくださるように。
エフェソの信徒への手紙 3章17節



礼拝献花より

御言葉に生きる

あなたの御言葉は、わたしのものとなり わたしの心は喜び躍りました。
エレミヤ書 15章16節b

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『超える愛』

牧師 佐藤和宏

ヨハネ6章1節～21節

はじめに今日の主題を確認するために、それを明確に表す特別の祈りに目を向けてみましょう。次のようにありました。「あなたは私たちの心に、御言を慕い、真理に飢え渇く思いを起こしてくださいませ。御子こそ天よりのまことのパンであることを悟り、このパンを世の全ての人々と分かち合うことができませうように。」

祈り求めるということは、すなわち現状はそうではないという事実を明らかにしていると言えるでしょう。そして「御言葉を慕い、真理に飢え渇く」とき、私たちは「主イエスが天からのまことのパンでありことを悟る」のです。それは「このパンを世のすべての人々と分かち合う」ようになるためです。確かに奇跡物語は、わずかなもので五千人もの人々を満たしたことを告げています。しかし大切なことは一時的な満足、すなわちまことではないパンによって

満たされたものでしかないという事実を知ることにあります。つまり今日の奇跡は、私たちが「天からのまことのパン」を求めるようになるためののです。

現在、個別になされている勉強会では「ルターの信仰に生きる」という小さな本を用いて学んでいます。先週の勉強会で「自由ゆえの愛、愛ゆえの自由」という項目を取り扱いました。その中でルターの次の言葉に触れました。『勝利を敗北の中に隠されていた』、『弱さをその強さの中に秘められていた』、『死の中にその生を隠されていた』あのお方を見ようではないか。私たちが思うことと反対する中に神の御心が隠されているということなのです。これが預言者イザヤを通して神が告げる「神の思い、神の道は、私たちの思いや道を高く超えている」ということなのです。

さて、第二の朗読でお読みいただいたエフェソ3章14節以下に目を向けてまいりましょう。次のようにありました。「信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住まわせ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしつかりと立つ者としてくださるよう」に。」

「キリストが私たちの内に住まわれる」ことも、「愛に根ざして立つ」ことも、信仰によると言われているのです。ルターは信仰について、「神の働きかけである」と言っています。

つまり、信仰は人間の側の個人的なことではなく、神の事柄であるというのです。信仰は人がいかに信じるかということですから、人間の事柄と考えるのですが、すべては神からの働きかけがあつて、人は信じるこ

とができるのです。それはちょうど、池に石を投げ込むことで、水面に波紋が広がるのに似ています。外から何の刺激もなければ、何も起こらないのですが、石を投げ込むという刺激が波紋を呼び起すのです。これと同じように、私たちが信じるということについても、自然発生的にそれが起こるのではなく、神の働きかけがあつて、私たちの内に信仰が生じるのです。ですから、「信仰によって」「心の内にキリストを住まわせ」「愛に根ざし、愛にしつかりと立つ者として」くださるのは、すべて神であるということがわかるのです。

続いて次のように言われています。「聖書略」。

これは、どれほど離れていたとしても、キリストの愛が届かないところは無いということでしょう。どれほど状況が悪いと思われたとしても、キリストの愛に包まれないところはないということでしょう。このように、私たちは「人の知識をはるかに超える愛を知る」ようにと、招かれているのです。なぜなら、このような愛を示すキリストこそ、天からのまことのパンであり、私たちを満たすからなのです。

キリストの十字架は、人の知識からは敗北のように映りましたが、人の知識をはるかに超えた神の愛なのです。私たちが人間的常識に捉われている限り、その愛はわからないのですが、神にすべて委ねるなら、その愛が届かないところはなく、その愛に満たされない人はいないのです。

この愛こそ、私たちに与えられた「天よりのまことのパン」、主イエスご自身なのです。この主に飢え渇き、慕い求めて生きるとき、今週も安心して、すべての人々とこのまことのパンを、その喜びを分かちあいつつ、生きることができるようになります。

(聖霊降臨後第9主日)

○村○子姉を想って

市○○江

今から10年以上前になりますが、教会員のために、生け花教室を開催してください、第4木曜日の午後、毎月楽しくお花を活ける事、世間話を楽しみ、最後にはお茶の時間と本当に、楽しい教室でした。○村姉は、教会の聖壇を飾られる事は、私の悦びなのとおっしゃって、日曜礼拝の献花を常に整えてくださいました。本当にどんなに感謝しても足りません。

6月の或る日、駅の方に向かって歩いて居りますと、少し前に○



村姉のお姿を見つけました。急ぎ足で歩いて声をかけました。どちらにお出かけですか？と聞きました。眼科までとおっしゃいました。いつもより、少しお顔色が悪く感じましたが、コロナでお互いマスクの日常です。普通にお話しして、食欲はありますか？などとお話しして、○村姉は、最近あんまりないのよ、と。何か食べてみたいものはありませんか？と私……。しばらくして、そうですね、子どもの頃、母が良く食べさせてくれた筋子が時々頭に浮かぶのよ……。やがて眼科の下のエレベーターの前に着き、じゃあまたと言っ

て、別れました。次の日、私は筋子を求めて青葉台に急ぎました。そのまま○村姉のお玄関でお手渡しできました。ニコニコして、あらまあ……。と言う感じでした。それが最後になるうとは夢にも思えませんでした。

6月14日、私は2回目目のワクチン予防注射があり、3時頃終わっ

て、タクシーに乗り、帰宅中ドライブが上の道を行きますか？下の道でもいいですか？と聞かれ、私はどちらでも、家に着けばいいんですよと言つて、気がついたら、○村姉の家の前にいました。姉の家を見上げて、頑張ってくださいと祈りました。帰宅して一休みして居りましたところ、教会の役員さんから今朝、○村姉が召された由。頭の中が真っ白になりました。佐藤牧師が訪問された時は、まだ温かかったと……。やがてお別れの会も終わり、私の携帯にメールが入っていました。○村姉からのメールでした。

「先日は筋子、大変おいしく本当にありがとう♡自習の礼拝、私の献花、活けてくださるとのこと、感謝です。」

このメールは私の宝物となりました。

○村姉は、常に凛として、多くは語られませんが、長い教会生活の中で、常に神様と向き合つて日常を過ごされておられたお姿を拝見致して居りました。○村姉の門下生全員で日曜日礼拝の献花を守って参ります。天国から見守ってください。

○村先生に感謝

○ク○子

○村先生とは、2007年頃に私から「教会でフラワーアレンジメントを教えてくださいませんか？」とお尋ねした所、「古風な生け花でしたら教える事はできますよ。あなたもチャレンジして見ませんか？」と言われ、その事がきっかけで生け花を習う事になりました。

まずは少人数からお教室のスタートしてくださった事は、今でもはつきり覚えております。私にとつて生け花は初体験でしたので、なかなか上達しなくて自信が持てなかった時に、○村先生は「日々の積み重ねが大事なんですよ」と励まされ、約8年間続けることができました。私が活けた花が冴えない時も、先生のお得意のマジックハンドで、見事に華やかになり、何回も驚かされました。本当に素晴らしかったです。

今は天国へと旅立たれてしまいましたが、○村先生を偲びつつ、教わった生け花を忘れずに、自分なりにこれからも生きていこうと思います。ご一緒にいられた時間に感謝の気持ち

ちでいっぱいです。

本当にありがとうございます。

○村先生の思い出

○田久○子

○村先生というと、いつも見事なお花を生けられている姿を思い浮かべると思います。でも私の印象に残っているのは、生けて何日か経ったお花をもう一度花瓶から出して、茎の根元を水道の水できれいに洗い、再び生け直されている後ろ姿です。「いつもが勉強なのよ」と静かにおつしやりながら、新たに前とは全く違うイメージに生けてしまおうかかげでいつも教会にお花が絶える日はありませんでした。その後ろ姿が、お花に対する愛情というものを私に教えてくれました。

○村先生にお花を習い始めてから何年になるでしょうか。初めの頃は、お花一本を花瓶に入れるのに30分位かかっていた私。それでも根気よくお付き合いくださり、少しでも良い所を見つけては「あら、素敵じゃない」と、まず褒めることを忘れない。そしてよく口になさっていた言葉は、「主役となるお花だけでなく

脇役となる全てのお花が生きるように生けるのよ」でした。このお花に対する竹村先生の考え方は、キリスト教の教えと深く結びついているように思えます。

最近私も家でお花を生けることがあり、時々先生に写メを送ってご指導をいただいたりしていました。でももうそんなことも出来なくなりました。本当に悲しい。花瓶を前にして途方に暮れている私に、もう一度何か声をかけていただきたいです。

天に召された○村先生が、安らかに眠られますように心よりお祈りいたします。

「○村○子様へ」

江○○子

2007年5月にスタートしたいけ花教室。

○村さんの人柄に触れ、たくさんのお話を学んだ事は大きな幸せであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

最初は「古流」という流派を少数で学びました。それこそ皆初心者のお花をいけているのになぜかジャングルのようになってしまってお花た

ち。時にはあちこち向いてしまい、收拾がつかずでんでばらばらな状態に。そのような時、○村さんの所謂マジックハンドであつという間に綺麗に整えられ、作品となり大満足。最後にいつも写真を撮って下さり、現像して下さった写真は私のお花アルバムとなり、大切な宝物になりました。

いつも「あら、今日のお花、上手にいけられたわね。」と、○村さんの柔らかい優しい声が今も聞こえてくるようです。いけ花教室も人数が増え、外部からも数人参加となりました。本当に和気あいあいとした楽しい教室で、終了後のお茶会ならぬ女子会はおいしいスイーツを持ち寄り、日が暮れるまでおしゃべりをして、楽しくそして有意義なひと時を過ごしました。

私が今でも心に残っている○村さんからの言葉を紹介します。

「お花を触ると嫌なことは忘れる」と。確かにお花をいけ始めてからは、お花の持つ優しさと繊細さの中にある力強さに触れると、心の中のとげとげしい感情が消え去り、心の中に穏やかさが戻ってくるという事を教

えて頂きました。

「余計なことに耳を傾けたり、見ではだめ。教会に来ることは神様と真正面から向き合うためよ。」と。悩みを抱えて心が折れそうになった時や迷いが生じ、自分の信仰が揺るぎそうになった時、このように声をかけて下さり、自分もそうのようにしてきたと。本当に深い信仰を貫かれた○村さんの言葉は、今も私の心に残っています。

13年間続いたいけ花教室も、昨年新型コロナウイルスの感染拡大により休止となりましたが、お花のいけ方も少しだけ分かるようになりました。

今頃は、天国で大好きなお花を先に天に召された生け花教室のメンバーである○山兄、○川姉、○岡姉、堀○姉と共に、いけていらつしやることと思います。

お会いできないのはとっても寂しいですが、今まで本当にありがとうございました。今日、私は○村さんの大好きな紫のりんどうをいけましたよ。

どうぞ、神様のもとで安らかに眠りください。

今までの感謝を込めて・・・

○飼由○子

『人はパンのみで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』

マタイによる福音書4章4節

『だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思わねばならぬ。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。』

マタイによる福音書6章34節

この2つの聖句は、私にとって父との思い出の聖句です。私の父はクリスチャンホームで育った母と違い、年に1度家族とクリスマスに教会に行く程度でしたので、家族誰も父が受洗するとは思っていませんでした。

まだ現役で仕事をしていた65歳の時に、突然体調を崩し余命6カ月と医師から宣告されました。本人はもちろんのこと、家族もとても驚きました。

慌ただしく検査や手術となりましたが、その甲斐もなく3カ月ほど

経ったところに自宅に戻ってききました。自宅に戻ってしばらくした頃に、

父が受洗をしたいと希望し、牧師先生にお願いして、何度かの勉強会後に自宅で洗礼をして頂きました。亡くなる2カ月ほど前のことでした。

この2つの聖句はその時に、父にそして家族に牧師先生が授けてくださった聖句です。食事が喉を通らなくなってきた明日への不安を感じる父に、また、父に何もできない私たち家族に、神様が共にいてくださり明日のことは心配しなくても良いと教えてくださいました。本当にあつという間の半年でしたが、父がとも安らかに家族全員が見守る中神様のもとへ召されたことに感謝しています。

あれから30年近くなりますが、私にとって折々に父のことを思い出せず、そして神様からの励ましと希望と安らぎを与えてくれる聖句です。



初めまして！

定○○子

私がルーテル藤が丘教会に初めて伺ったのは、昨年8月ですから、早いものでもう一年たったことになります。受付の方をはじめ皆様がいエス様の愛の心で接して下さったので、私の胸には何とも言えない暖かいものが広がったのを覚えています。そして佐藤牧師様には、昨年の9月から今年の1月まで5ヶ月間にわたり「ルター信仰に生きる」を教訓本として20回も講義をしていた

いただきました。お陰様で1日を過ごす中で神様の存在を意識する時間が大幅に増えました。皆様には本当に感謝しています。

私は神奈川県秦野市今泉という片田舎で生を受けました。5人兄弟の真中で、父母の他に父の姉で助産婦をしていた伯母が同居していましたから、8人家族でした。父が聖公会の熱心な信者でしたので、生後3ヶ月のクリスマスに洗礼を受けました。おそれ多くも洗礼名はエステルです。父は毎週土曜日の夜、自宅

に近所の子ども達を招いて「小羊会」という土曜学校を開いていました。ですから土曜日の夕食は、いつも牧師様と一緒に食卓を囲みました。聖公会には生まれてからこの方、ずっとお世話になりました。この様な私が何故このルーテル教会に導かれたのでしょうか。不思議です。

私がこの教会で2回目の礼拝に与り讃美歌416番「我が行く道いついかに」を歌っている時、私には理解できなくても、神様のみ心なだと指し示して下さいている気がしました。

音楽好きの私にとって何より嬉しかったのは、大作曲家のバッハやメンデルスゾーンがルーテル教会の信者だったことです。それと私が趣味としているフラダンスの先生や、その先生について習っている方がこの教会にいらっしやることを知り、嬉しい驚きでした。

私の好きな名言の1つは、テサロニケ1章16～18節の「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」です。これからも末永くよろしくお祈り致します。

■教会の動向



7月の教会は、4日の礼拝前にCSがありました。礼拝は、グループAの皆さんが出席しました。礼拝後、定例役員会が開かれました。牧師報告では、6月に召天された○田○子さん、○村○子さんのご葬儀等の報告がありました。代議員からは、本教会常議員会議事録より、①男女比の報告について今後総数として把握することとした。②太田牧師(仙台、鶴ヶ谷教会)が、体調不良のため、

7月31日をもって退職される。以上2点の報告がありました。会計からは上半期の報告がありました。会堂大型補修については、7月に工事開始、9月下旬完了の予定です。東教区の信徒講座及び役員研修会が、インターネットを用いて始まりました。協議事項では、熱中症対策に関し、冷蔵庫に飲み物を用意し呼びかけること、熱のこもりやすい聖壇に小さい扇風機を設置することが決まりました。／信徒礼拝は8月15日となりました。証言者に打診することになりました。／コロナ禍にあつて

今月の受洗記念日の皆さん

24日 ○田○郎兄

26日 ○田○子姉

おめでとうございます。



休止していた女性会を、9月12日の礼拝後に開くことになりました。／拡大宣教委員会の第3回を7月18日礼拝後に開くことになり、その内容を確認しました。5日に勉強会を行いました。7日には聖研がありました。

11日の礼拝は、グループBの皆さんが出席しました。12日に、印刷物の発送作業をいたしました。14日には、東教区小平墓地にて、○田○子さんの納骨の祈りが執り行われました。15日に勉強会がありました。16日には、教区常議員会がリモートで行われました。17日には宣教フォーラム準備委員会が、こちらリモートにて開かれました。○村さんと○野智○子さんが委員として関わっています。

18日の礼拝前にCSがありました。その後勉強会がありました。礼拝は、グループAの皆さんが出席されました。礼拝後、拡大宣教委員会が開かれました。19日、勉強会がありました。21日、聖研がありました。

25日の礼拝には、グループBの皆さんが出席されました。26日に勉強会がありました。28日、リモートに

教会ツイートから

「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。」詩編23編1節

私たちはあらゆる面で、欠けだらけに思われます。しかし主が羊飼いであるゆえに、ただ神の理由によって、私たちはすべて満たされているということです。

羊が努力して生きるものではありません。羊飼いの憐れみが、羊を生かすのです。

て城南神奈川地区牧師会が開かれました。31日、高尾霊園にて○村○子さんの納骨の祈りがありました。

■今後の予定

8月2日(月) 地区長会

8月15日(日) 信徒礼拝(証言…

○野○子さん)

8月21日(土) 城南神奈川地区会

※8月の諸集会はお休みです。

感染拡大が収まる気配がありません。皆さんのご健康が引き続き、守られますようお願いいたします。(佐藤)